

議会広報広聴委員会記録

令和7年12月23日（火）

9時59分～11時52分

第4委員会室

【出席者】大谷委員長、岡山副委員長、
西田一平委員、今田委員、遠藤委員、花田委員、
戸津川委員、沖田委員、笹田委員、岡本委員

【事務局】下間局長、村山書記

議題

1 はまだ議会だよりVol. 80の編集について……………資料1

(1) 校正作業

ページ	担当委員	記事
1-5	今田委員 遠藤委員	表紙、ポイント、トピックス、議案の賛否、 個人一般質問（7名）
6-9	戸津川委員 岡本委員	個人一般質問（14名）、ぎかいポスト
10-13	西田委員 花田委員	まるよみ、視察の受入れ、議会用語Q&A、 市民対談
14-16	沖田委員 笹田委員	委員会活動レポート、あとかきほか

(2) その他

2 広報広聴の取組について……………資料2

(1) 令和8年度の取組

(2) その他

3 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

〔 9時59分 開議 〕

○大谷委員長

ただいまより議会広報広聴委員会を開始する。出席委員は10名で定足数に達している。レジュメは配信済みのため、朗読は省略する。議題1から順に協議する。

1 はまだ議会だよりV o l . 80の編集について

(1) 校正作業

○大谷委員長

校正作業をお願いします。昨日配信した資料に基づき、各校正担当から内容の説明をお願いします。1ページ目から順に進める。

(以下、校正作業)

8ページの一番最後、個人名が掲載されている。前回の委員会で「個人名は掲載しない」という方向でまとまったと思うが、確認したい。委員会としては、個人名は掲載しない方針で進める。これについて、当該議員から「個人名を掲載しない場合はQ & Aを白紙にしたい」との意向があったが、白紙で載せるとなると議会だよりの体裁に問題が出てくると思うが、この扱いについてどう対応するか。

○遠藤委員

全てカットではなく、森谷議員の質問が載っていないのは、委員会としての決定がこうで、本人の希望でこうなったとした方が良くと思う。

○大谷委員長

今の意見について、意見があるか。

(「賛成」という声あり)

個人名の掲載について、委員会として不可となったため、本人より掲載はしないとの申出があった旨をここに記載するでよろしいか。

(「はい」という声あり)

(以下、校正作業)

校正作業については、以上で終了する。

2 広報広聴の取組について

(1) 令和8年度の取組

○大谷委員長

資料2に基づき、令和8年度の取組について事務局から説明をお願いします。

○村山書記

(以下、資料を基に説明)

○大谷委員長

例年の日程ベースでのスケジュール案である。定例会議に合わせた議会だよりの

発行、広聴活動としてのぎかいポストの回収、そして議会報告会である地域井戸端会の流れを記載した。来年度についても、5月に地域井戸端会を開催するようであれば、1月頃には内容を決定し、全員協議会で報告する流れとなる。意見はあるか。

○沖田委員

地域井戸端会について、前委員会からの申し送り事項として28か所というかなりの数があり、どうだろうとの意見があった。委員長はどのようにお考えか。

○大谷委員長

次の委員会で深めていければと思う。28か所について多いとの意見もあればさらに増やしたいとの意見もあった。私個人としては、多いと感じる。また、このたび、新人議員も増えた。いきなり3人1組の班で代表として対応するのは負担が大きいのではないか。その場合は班の人数を増やすことも考えていかなければとも思うのでより会場数が多く感じることも考えられる。

○笹田委員

LINE WORKSを活用して各委員の意見を集約し、次回の委員会で集中的に議論してはどうか。新人だから対応が無理だとかは今回の新人なら大丈夫だと思うのでやっていただければと思う。

○戸津川委員

始めに手順のレクチャーをいただければ問題ない考える。

○大谷委員長

心配として、「過去にこのようなことを言ったがどうなったか」という問い合わせについては、経験がないと答えるのが難しいと思ったため意見を出した。

○岡山副委員長

昨年何人来たかやどういった進め方をしたかが分かる資料を次回までに提示いただければと思うのでお願いします。

○大谷委員長

副委員長と私で論点を整理し、LINE WORKSで意見を求める。それに基づき、次回の委員会で方向性を決定する。

なお、はまだ市民一日議会についても、例年どおり10月頃の開催を想定している。これについても異論がなければ、その方向で今後協議する。

(「異議なし」という声あり)

(2) その他

○大谷委員長

西田一平委員からSNSの活用について提案があるとのことなので、お願いします。

○西田一平委員

(以下、資料を基に説明)

現状の課題として、紙媒体だけでは若年層への到達が弱く、反応が見えにくいという点がある。そこで、紙とSNSの併用を提案する。特にLINEは幅広い世代に使われており、インフラ化している。

例えば、出雲市議会では公式LINEアカウントを活用し、議長の動画メッセージや委員会の予定、重要施策へのリンクメニューなどを配信している。基本利用料は無料の範囲内でも可能である。

まずはLINEから始め、将来的にはInstagramやTikTokで本会議のハイライト動画を公開するなど、段階的に進めていければと考えている。運用については、事務局を中心にしつつ、担当議員がコンテンツの確認・承認を行う体制を想定している。

○大谷委員長

実現性はあるように思われるが、今の説明で質問や意見はあるか。

○笹田委員

出雲市は事務局が主導しているようだが、本来は議員が主体となって動くべきである。動画加工などで事務局の業務負担が増えるのではないか。

○西田一平委員

そのための時間を確保するために、現在発行しているはまだ議会だよりminiを廃止するなど、業務のスクラップ・アンド・ビルドを検討する。

○笹田委員

miniは全国的にも評価が高いので、安易にやめるのはもったいない。月1回のminiの内容を、そのままLINEで配信する形に移行するのは一つの手である。

○沖田委員

やってみれば良いと思う。

○岡山副委員長

出雲市の事例を見ると、登録者が1,000人を超えると無料枠の200通では収まらなくなり、月額5,000円から1万5,000円程度の予算が必要になる。最初から予算を確保する前提で進めなければ、途中で配信が止まってしまうリスクがある。

○遠藤委員

LINEだけでなく、もっと安価で、かつ登録者数に左右されないアプリやツールの活用も考えられる。例えば、特定の団体で使用されているスマートフォン向けの簡易アプリのような仕組みであれば、コストを抑えられるかもしれない。

○大谷委員長

SNSを活用した情報発信については、非常に前向きな提案だと受け止めた。まずはSNS戦略の研究を開始するということでまとめたいと思うが良いか。

(「はい」という声あり)

西田一平委員から示された内容も含め、引き続き当委員会で論議を重ねる。

3 その他

○大谷委員長

全体を通して、ほかに何かあるか。

○今田委員

先ほどのSNSの件だが、各常任委員会のように班に分かれて調査研究を進めたほうが効率的ではないか。「SNS研究班」のようなものを設置し、実効性のある提案を早期にまとめたい。

○大谷委員長

良い提案である。それでは研究班を設置することとする。指名をお願いする。

○沖田委員

班長について、西田一平委員に推薦します。

○大谷委員長

1人で良いか。

○沖田委員

班員として今田委員、遠藤委員、岡山副委員長を推薦します。

○大谷委員長

指名のあった、西田一平委員を班長とし、今田委員、遠藤委員、岡山副委員長の4名をお願いしたいが、良いか。

(「はい」という声あり)

では、その4名でSNSの具体的な活用方法について研究を進め、結果を当委員会へ提示することをお願いする。ほかにはないか。

(「なし」という声あり)

以上で、議会広報広聴委員会を終了する。

[11時52分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 大谷 学